

1 事業名

A-2 市民の居場所として魅力ある公共施設・公共空間づくり
地域と大学の連携による気軽に滞在できる居場所の創出
-南草津駅周辺の公共施設・公共空間デザインワークショップ-

2 事業概要

- ・本事業の目的は、南草津駅周辺の公共施設や公共空間の利用実態を空間認知及び環境心理学の視点で調査分析し、その結果を踏まえて課題を整理し、公共空間の利活用及びリニューアルのアイデアと、その実現方法を提案することである。
- ・具体的には、現地調査や事例調査を踏まえ、南草津駅周辺の公共施設や公共空間を対象にした計4回に渡るワークショップを開催し、対象地に対する課題の整理、公共空間の利活用及びリニューアルのアイデアについて話し合いを行った。

3 事業内容

※欄が不足する場合は、別紙（A4版縦型）を追加してください。

社会実験の必要性

- ・近年では全国各地で、歩いて楽しむことができ、かつ、多様な活動が出来る場所への創出に向け、公共空間を車中心から人間中心の空間へと再構築されている。
- ・これからの南草津においても、賑わい等をイベント時に限らず持続的に確保できる、魅力ある公共施設・公共空間の構築が必要である。
- ・そのために、公共施設・公共空間のリニューアル整備の可能性を検討した上で、社会実験を実施し、その効果や課題を把握した上で、都市再生整備計画に基づいた道路占用許可などの特例制度の可能性を検討することが必要である。

実施場所

- ・アンケート（ヒアリングを含む）は、南草津駅前でいった。
- ・公共施設の現地調査は、フェリエ南草津や南草津駅構内、UDCBKなどを対象とした。
- ・公共空間の現地調査は、南草津駅周辺（東口は国道8号線まで。西口は、南草津1・2丁目まで）のエリアとした。
- ・ワークショップ、その他の打ち合わせなどは、基本的にUDCBKで開催した。

実施方法

- ・アンケート、現地調査、ヒアリング調査および事例調査は、本研究会が中心となり、草津市やUDCBKと相談しながら実施した。
- ・合計4回構成のワークショップについて、寶珍がコーディネーターを務め開催した。班毎のファシリテートは、UDCBKスタッフの協力を得て、学生が記録を行った。

実施内容

■事前調査時（アンケートおよびヒアリング調査）

- ・南草津駅周辺の居場所に関する質問や、公共空間の活用方法に関する質問を、アンケート形式（ヒアリングを含む）で実施した。

■現地調査（現地調査）

- ・朝・昼・夜に、南草津駅周辺の歩道や公園の利用状況（利用者の世代、グループ・個人、利用目的など）の目視調査を行った。

■ヒアリング調査

- ・ワークショップ中に参加者（利用者・地域住民・官公庁の方々）と意見交換した。

■事例調査

- ・本研究会で、公共施設や公共空間の利活用に関する内容をはじめ、国内外のストリートマネジメントやパークマネジメントなど、プレイスメイキングの文献・事例を調査した。未だに続くコロナ禍等の影響もあり、他市町村のUDCの現地視察は控えたが、先進事例の現地視察などは必要と考える。

■ワークショップの告知

- ・これまでのUDCBKのまちづくり関係事業への参加者名簿、チラシの配布、SNSを利用した告知等を通じて、利用者／地域住民／事業者（オーナー、テナント等）に参加を呼びかけた。

■ワークショップの開催

- ・寶珍が全体のコーディネートを担い、計4回の構成で実施した。
- ・第1回ワークショップでは、グループ（計3班）に分かれて、南草津駅周辺の公共施設の現地視察を行った。その後、UDCBKで現状の課題点や、利活用についてアイデアを出し合った（図1）。
- ・第2回ワークショップでは、前回ワークショップの結果を振り返るとともに、南草津駅周辺の利用方法を考えながら、模型で表現してもらった（図2）。その際、駅周辺の公共施設が抱える課題を意識できるようプログラムを作成し、実施した。
- ・第3回ワークショップでは、南草津駅周辺で1日を過ごすシミュレーションを行い、前回ワークショップの結果を振り返りながら、公共施設や公共空間の整備に関するアイデア出しを行った（図4）。
- ・第4回ワークショップでは、自動車や公共交通機関の利用も視野に入れ、南草津のまち全体の範囲で1日を過ごすシミュレーションを行った。そして、前回ワークショップの結果を振り返りながら、移動手段や利用時間帯、過ごし方、および必要な機能について、意見出しを行うとともに、未来の駅周辺の公共施設・公共空間、および未来の南草津のあり方について、意見交換を行った。

■報告会

- ・2023年2月24日に、UDCBKにて、本取り組みに関する報告を行った。
- ・その際に、ワークショップ時のワークシートやアンケート内容の分析結果や考察についても報告した。



図1 第1回ワークショップの様子



図2 第2回ワークショップの様子



図3 第3回ワークショップの様子



図4 第4回ワークショップの様子

効果測定の指標等測定方法

- ・効果測定のため、全てのワークショップ終了時にアンケートを実施した。
- ・ワークショップ中に参加者が記入したワークシートや、意見交換時の録音も行い、各回ワークショップの振り返りに活用した。

対象者や人数

- ・ワークショップの一般参加者の人数は、各回 20 名程度であった。
- ・参加者のご所属については、地域にお住まいの方や、官公庁所属の方、南草津駅を日常的に利用している学生、経営者など、幅広く見られた。

実施のための費用

- ・主に、ワークショップ等に必要な消耗品（参考資料や付箋や模型材料などのツール作成用）の購入や、ワークショップの準備およびデータ整理時の人件費（学生アルバイト代）として使用した。

実現のための課題

- ・本事業で開催したワークショップでは、ワークショップ参加者が駅前拠点施設に必要と考えた機能や居場所のアイデアについて、共有することができた。加えて、そのような駅前拠点施設が実現した未来を想定して 1 日を過ごすシミュレーションをした際、必要な機能・居場所や不足している機能・居場所に関する意見交換がなされた。このことから、「必要・欲しいと考えるか」に加えて、実際の過ごし方のイメージなどを通じた検証の重要性が示唆されたと考える。
- ・また、徒歩の場合と自動車や公共交通機関を利用する場合とで、滞在場所や滞在時間帯、過ごし方に変化が見られたことから、多様な立場・ご所属の方々からの意見収集を重ねていく必要があることが示唆された。
- ・以上を踏まえ、今後も引き続き、個別の拠点設計だけでなく、街のビジョンや具体的・現実的な過ごし方を考慮しつつ、多様な年齢・立場・ご所属の方々と駅前公共空間・公共施設の在り方を議論していく必要があると考える。
- ・本年度の取り組みにより、南草津駅前の公共空間・公共施設に求められる機能や過ごし方のアイデアを得られ、ワークショップ中の成果物資料の分析から、未来の南草津の公共空間・公共施設の整備に関する提案を行った。また、未来の南草津について考えるきっかけづくりの場を設けることができたと考える。
- ・今後は、必要コストや持続可能性や特例制度の利用の可能性なども含め、日常的に利用できる公共空間目指し、具体的な社会実験実施の計画を進めていく必要があると考える。
- ・事業者の方々には、一部ヒアリングを行ったものの、今後、公共空間の利用方法を考えていく上では、利用者・企業や事業者・官公庁の方々・UDCCBK・大学がより連携して、計画を進めていく必要があると考える。

※文章を補うために、写真、イラスト、イメージ図を使用することができます。（カラー可）

4 事業のねらい、目標に対する到達度の自己評価

■事業のねらい

- ・本事業のねらいは、ワークショップで出されたアイデアや提案をもとに、①安全・安心に配慮した公共施設と公共空間のリニューアル整備と、②誰もが楽しみながら使いこなすことのできる居場所として、公共施設と公共空間の連携のための仕組みの実現に向けた調査や社会実験を実施することである。

■事業の目標

- ・本事業の目標は、南草津まちづくりビジョンのとりまとめ、都市と交通のシナリオスタディなどの取り組みに合わせて、以下の2点の実現を目指すことである。
- ①市民・草津市・事業者（交通、店舗テナント、不動産オーナー等）による公共空間の整備や地域活性化を推進するために、それぞれの役割を明確にしつつ、新しいまちづくりの担い手を発掘し、公民連携による推進体制を構築すること。
- ②ハード整備が完了した後の街の維持管理運営、すなわち公共空間のマネジメントを推進するために、その指針となるガイドライン（関係者が守るべき基本方針と公共空間等の利用活用のルールなど）の案を策定すること。

到達度の自己評価

- ・ワークショップでは、現地調査による課題整理を踏まえ、南草津駅周辺の公共施設と公共空間のリニューアル整備や地域活性化の推進に向けた利用のアイデアをまとめ、実際にまちで過ごすことを想定したシミュレーションを通して、利用のアイデアの検証や修正を行った。以上から「事業のねらい」や、「事業の目標」の①について概ね達成できたと考える。
- ・また本事業中の事前調査にて、駅前拠点施設の事業関係者の方々や今後の課題や維持管理に関する内容について意見交換を行うことができたことや、ワークショップ時に市の職員の方々も一緒に、維持管理運営に関する議論もできた部分があることから、「事業の目標」の②についても、概ね達成できたと考える。
- ・ただし、本事業で実施した利用のアイデア整理や、実際にまちで過ごすことを想定したシミュレーションについて、今後より多様な年齢層・立場・ご所属の方々を対象として様々なケースを想定し、検討していく必要があると考える。
- ・ワークショップを通して、公共空間や公共施設の利用のアイデア等をまとめることが出来たが、法的制約や運営・維持管理に関するガイドラインの策定までには至っていないため、今後も引き続き、UDCBK を拠点に産学公民で連携しつつ、社会実験等の計画を進めていく必要がある。

本事業は、ワークショップ参加者やUDCBKのスタッフ様、草津市役所の方々、研究会メンバーなど多くの方々のご協力により、実現することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

※文章を補うために、写真、イラスト、イメージ図を使用することができます。（カラー可）

5 草津市が支援した事項

今回の事業実施にあたり、草津市に依頼した事項について○をつけてください。

- (○) アーバンデザインセンターびわこ・くさつを研究拠点として提供
- () 草津市の公共施設の先行予約、施設および附属設備の使用料の減免
- (○) 公共施設へのチラシおよびポスターの設置依頼
- (○) 市ホームページ、UDCBK の Facebook での事業の周知
- (○) その他 ※具体的に記載してください

{

}

6 事業の実施期間

令和 4年 7月 1日 ~ 令和 5年 2月 28日